

## 令和5年度 学校評価（保護者アンケート集計結果）

### 1 アンケートの概要

(1) 対象 保護者、児童、教職員

(2) 実施日 1月

(3) 保護者回収率 74.8%

### 2 評価結果 ※ 肯定的回答は、評価4、3を合わせた値

4：よく当てはまる 3：どちらかと言えば当てはまる

2：あまり当てはまらない 1：全く当てはまらない

|    | 質問項目                                                 | 肯定的回答<br>(保護者) |
|----|------------------------------------------------------|----------------|
| 1  | お子さんは、楽しく学校に通っている。                                   | 95.2%          |
| 2  | 学校は、学習意欲の向上と基礎学力の定着に努め、考える力や表現する力を伸ばしている。            | 93.4%          |
| 3  | 学校は、各教科や総合的な学習の時間をとおして、ふるさと学習の充実を図っている。              | 91.6%          |
| 4  | お子さんは、授業がわかりやすいと言っている。                               | 88.0%          |
| 5  | お子さんは、家庭学習（宿題を含む）をすることが、習慣化している。                     | 80.1%          |
| 6  | お子さんは、挨拶や言葉づかいなどの基本的な生活習慣やマナーが身についている。               | 83.1%          |
| 7  | 学校は、読書の習慣化を図るための指導を適切に行っている。                         | 85.5%          |
| 8  | 学校は、自己肯定感を育てながら、友達を思いやる心や、自分や仲間を大切にする指導を適切に行っている。    | 87.3%          |
| 9  | 学校は、外遊びや体育の授業などにより、運動に親しんだり、体力をつけたりする取組を行っている。       | 95.8%          |
| 10 | 学校は、望ましい食生活や健康に関わる生活習慣を実現するための指導に努めている。              | 92.2%          |
| 11 | 学校は、いじめなどの問題行動に対して、アンケートや教育相談などをおして、早期発見・早期対応に努めている。 | 89.2%          |
| 12 | 学校は、児童一人一人の教育的ニーズに合った指導に努めている。                       | 86.1%          |
| 13 | 学校は、いろいろな便りやメール、ホームページ等で、学校の様子や子どもたちの活動の様子を伝えている。    | 88.6%          |
| 14 | 学校は、保護者や学校外の機関と協力した活動を実施して、家庭や地域と連携しながら教育活動を進めている。   | 88.6%          |
| 15 | 学校は、児童の安全確保や事故防止に取り組んでいる。                            | 94.0%          |

### 3 結果（教職員・保護者・児童）の分析と改善点

#### ＜学校教育目標にかかわること＞

学校教育目標を意識して指導をした職員は 100%である。児童が学校に楽しく通っていると感じている保護者は 95.2%、（昨年度 97.4%）、楽しいと感じている児童は 95.0%（昨年度 96.4%）と昨年同様高い数値となっている。良好な人間関係をつくり、充実した学校生活を送ることができていると考える。しかし、「学校が楽しい」に否定的な児童、保護者ともに 5%程度いるのも現状である。さらに、昨年度に比べると微増しており、ていねいに要因を探り、対応していくことで 100%を目指していきたい。「役割や立場に応じた資質・力量の向上に努め、積極的に学校運営に参画している」に肯定的な評価をした職員は 100%である。引き続き、研修においても学校運営の参画においても一人一人のモチベーションが高まるように努めたい。

#### ＜本年度の重点・努力目標にかかわること＞

学習面では、「授業内容がよくわかる」と答えた児童は 94.5%と高い数値を示している。新型コロナウイルス感染症の感染拡大がほぼ落ち着き、宿泊を含めた校外学習や講師を招いての学習を積極的に取り入れたり、タブレットを活用した ICT 学習に取り組んだり、工夫した学習を実践した成果だと考えられる。今後も、児童の思考力・判断力・表現力を深めるために、さらに、授業改善を図っていきたいと考える。

家庭学習に関する肯定評価の割合は、保護者 80.1%、児童 88.2%であり、概ね高評価である。しかし、保護者よりも児童の自己評価が高い数値を示しており、その認識には差がある。児童の実態に比べ、保護者の期待はさらに高いところにあると考えられる。教職員の家庭学習への取組についての意識は高く、より児童が家庭で学習する習慣がもてるようにさらに工夫改善を図っていくとともに、家庭との連携を今一度見直し、同一歩調で支援しながら、さらに充実させていきたい。

読書活動について、76.8%の児童がしていると答えている。昨年度の 78.0%に比べると、肯定的な評価の割合はやや下がったが、一昨年の 62.3%に比べると高水準を保っている。朝読書の時間を通年で確保したり、廊下に図書を置き、いつでも手に取ったり選んだりすることができる環境であること、また、校長からの読書賞の取り組み、図書館司書や図書委員会による読み聞かせ活動が一定の成果を上げていると考える。しかし、家庭での学校の読書活動に対する評価については肯定的な回答が昨年度の 91.0%から 85.5%と下がっている。さらに、家庭とも連携をしながら、引き続き読書の習慣化が図れるようにしていきたい。

基本的な生活習慣として、児童の挨拶の自己評価は 90.0%と高い。児童は意識をして取り組んでいることがわかる。児童会の活動として、当番の児童が朝昇降口や門に立ち、挨拶運動を行ったり、各教室で継続したあいさつ指導を行っていたりすることが一定の成果を示していると考えられる。しかし、教職員や保護者の評価は低く、まだまだ課題である。校内での生活のみを中心に自己評価する児童と、他校や一般社会と比較しながら客観的に評価する教職員や保護者とでは期待している姿に差があるとも考えられる。今後も家庭と連携していきながら、期待される姿を具体的に提示するなどしてさらに改善に努めていきたい。毎日朝ご飯を食べている児童は 92.7%で、睡眠時間を十分にとっているとした児童

は90.9%である。昨年度（朝食96.4%、睡眠94.2%）と比べると、やや下降傾向である。児童の健康と成長に大きく関わる食事と睡眠については、早寝、早起き、朝ご飯の奨励を引き続きしていく必要がある。

「友達と協力したり、よいところを見つけたりしている」においては、児童は95.9%と高い数値である。また、いじめに関しての項目においては93.6%の児童が肯定評価であり、昨年度の94.2%と比べるとやや下がっているが大きな差はない。しかし、保護者のいじめ問題に関する早期発見・早期対応について、保護者評価は89.2%と下がっている（昨年度95.5%）。毎月の学校生活アンケートの実施にあたって素早く丁寧に対応したり、教育相談を適宜行ったりし、児童同士の人間関係トラブルを早期に把握し、早期対応に努めていきたい。これからも道徳や学校生活の場面をとおして、継続した心の教育を進めていきたいと考える。

体力向上面では、部活動を昨年度より再開したり、体育の授業で多様な運動をコロナ禍以前の水準まで戻し、積極的に行ったりした。休み時間においても、ボールの使用の再開、縄跳び板の設置、遊ぶエリアの提示をすることで、外で元気にサッカーやドッジボール等のボール運動、鬼あそびや縄跳びなどの体づくり運動を積極的にする児童が多く見られた。一定の成果が表れ、肯定評価の児童が93.2%と、高水準であった。運動をする機会が増えたことで、それに伴いけがをする児童も増えているので、安全対策を講じながら体力向上を図っていきたい。

交通安全や災害対応等の安全に関わる事項では、定期避難訓練（高台避難を含む）やロンポイント避難訓練など、地域と連携した取組や警察の協力で実践に向けた指導を行い、保護者が94.0%、児童が96.4%と高い数値となった。

### <保護者・地域との連携にかかわること>

「学校での様子がわかる」では、保護者の肯定評価は88.6%にとどまっている。昨年度より運動会の再開、4月、12月の授業参観、7月の個別面談を実施した。また、学校だよりや学年だより、ホームページで校内での活動を伝えた。また、月行事予定については、メール配信をするようにし、スマートフォン等で確認ができるようにした。校外学習等の行事写真についてはインターネットでの注文を昨年度より引き続きできるようにし、学校での活動の様子が伝わるように工夫した。各種たより、ホームページの更新をタイムリーに効果的になるよう心がけ、さらに積極的な情報発信に努めたい。

### <教育活動の活性化に関すること>

「業務改善」「不祥事根絶」「学校改善」については、それぞれ教職員から昨年度同様肯定的な評価が得られている。「働き方改革」については、昨年度よりも肯定的な割合が上がったが、まだまだ課題もみられるので、さらなる改善をしていきたいと考える。

## 4 自由記述より

- 家庭学習についてのご意見が複数あった。学力向上に家庭学習は欠かせないと考えているので内容や量について家庭とも連携を図りながら工夫していきたい。
- 異学年間交流への要望があった。新型コロナウイルス感染拡大が落ち着いてきたので学習内容によって、効果的に取り入れていきたい。
- 個性を大切にしてほしいとのご意見が複数あった。定期的な学校生活アンケート、教育相談等を活用しながら、子どもたちに寄り添い、丁寧に指導できるようにしたい。
- わかりやすい授業になるよう、日々心がけ、引き続き授業改善を進めていきたい。
- 肯定的なご意見がたくさんあり、励みになる。さらに充実した教育活動を進めたい。

## 5 令和6年度に向けての改善点

- (1) 全校児童が「学校が楽しい」と思えるよう、児童一人一人の活躍の場を設け、生徒指導の機能を生かしたわかる授業や、楽しい行事を工夫して実践していく。また、その中で自他を尊重する心を引き続き育てていく。
- (2) 学習面では、学習課題を明確にし、体験的な活動や、話し合い活動を一層充実させ、思考力や判断力・表現力を育てるよう授業改善を図る。ちばっこチャレンジ100の工夫ある活用を実施していくとともに、ICTを活用した授業や家庭学習の仕方についても子どもたちに指導助言を行うことで、工夫・改善していく。
- (3) 読書活動については、引き続き図書館司書の協力を得ながら、図書室や各教室周りの環境整備に努めるとともに、読書の機会を増やし、読書の楽しさを味わえるようにしていく。また、家庭での読書時間を増やすために、読書カードを実施したり、お便り等を出したりし、啓発活動を推進する。
- (4) 児童の健康や保健指導については、特に朝食や睡眠の大切さをしっかり伝え、日常生活でも実践できるよう、保護者も含めてさらに啓発していく。また、挨拶については、引き続き児童会を中心とした挨拶運動を実施したり、学校からの便り等で保護者と連携したりしながら児童の意識を高め、自然と挨拶ができるようにしていきたい。全職員が全児童に声をかけたり、挨拶をしたりすることをとおして、日常的に挨拶ができる環境を意識的に整えていく。
- (5) いじめ問題については、今後もアンケートや教育相談、日常の観察から早期発見・早期対応・早期解消に努めるとともに、ピアサポート等の人間関係づくりの学習や道徳の授業を充実させ、思いやりの心を育てる指導を意識しながら、いじめ根絶を目指す。また、児童の気持ちを尊重しながら個々に応じた対応に努め、善悪の判断ができるよう心を育てていく。
- (6) 情報発信について、効果的に学校での活動を伝えられるよう、各種たよりやホームページを活用しながらタイムリーに発信していく。